

1 月別気象概況 (2010年1月～12月)

福岡管区気象台

(1) 1月の気象概況

**1月上旬：はじめと終わりは高気圧に覆われて晴れの日が多く、
中頃は冬型の気圧配置による寒気の影響で曇りの日が多い。低温、少雨。**

はじめと終わりは高気圧に覆われて晴れの日が多く、中頃は冬型の気圧配置による寒気の影響で曇りの日が多くなり雪やみぞれの降った日もあった。

気温は期間を通して平年を下回った日が多く、旬では県内各地で平年を下回った。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は県内各地で概ね平年を上回った。県内各地の旬平均気温は2.5～5.6℃(平年差-2.4～-1.2℃)で低くなった。旬降水量は1.5～11.5mm(平年比12～40%)で少なく、旬日照時間は平年比94～126%で概ね平年並となった。

**1月中旬：前半は低気圧や寒気の影響で曇りや雨の日が多く、
後半は高気圧に覆われて晴れの日が多くなった。**

前半は低気圧や冬型の気圧配置による寒気の影響で曇りや雨の日が多く、雪やみぞれの降った日があった。後半は高気圧に覆われて晴れの日が多くなった。12～14日は冬型の気圧配置による寒気の影響で、0.5～26.0mmの降水量となった。20日は朝鮮半島付近の低気圧の影響で、2.5～60.0mmの降水量となった。

気温は、終わりは平年を上回ったが中頃まで平年を下回り、旬では県内各地で概ね平年を下回った。降水量は県内各地で平年を下回ったところが多く、日照時間は県内各地で平年を上回った。県内各地の旬平均気温は3.8～6.2℃(平年差-0.9～0.0℃)で平年並のところが多くなった。旬降水量は7.0～87.5mm(平年比41～186%)で平年並のところが多く、旬日照時間は平年比114～151%で概ね多くなった。

**1月下旬：天気は周期的に変化。高温。
九千部山では「月降水量の多い方から」の記録を更新。
前原、福岡では「月間日照時間の多い方から」の記録を更新。**

天気は周期的に変化した。21日は九州を寒冷前線が南下した影響で、0.0～8.0mmの降水量となった。27～28日にかけて九州を前線が南下した影響で、8.0～32.5mmの降水量となった。気温は、はじめ平年を下回った日があったが、期間を通して平年を上回る日が多く、旬では県内各地で平年を上回った。降水量と日照時間はともに県内各地で概ね平年を上回った。県内各地の旬平均気温は5.3～8.0℃(平年差+1.7～+2.4℃)で高くなった。旬降水量は17.5～46.5mm(平年比93～200%)で平年並か多くなり、旬日照時間は平年比99～161%で概ね多くなった。

月降水量は、九千部山で141.5mmの月降水量を観測し、1月の「月降水量の多い方から」の記録を更新した。月間日照時間は、前原で125.4h、福岡で133.6hを観測し、1月の「月間日照時間の多い方から」の記録を更新した。

(2) 2月の気象概況

2月上旬：天気は周期的に変化。高温。

天気は周期的に変化した。1日は九州の南を発達した低気圧が通過した影響で、14.0～23.5mmの降水量となった。低気圧通過後、3～6日にかけては冬型の気圧配置となり概ね晴れた。7～8日は気圧の谷の影響で雲の広がりやすい天気となった。9～10日にかけては朝鮮半島南岸の前線が九州北部に南下した影響で、5.5～23.5mmの降水量となった。

気温は、3～7日にかけては寒気の影響で平年を下回る所が多かったが、旬では県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で平年を上回り、日照時間は平年を上回る所が多かった。県内各地の旬平均気温は6.1～8.9℃（平年差+1.8～+3.0℃）で高くなった。旬降水量は18.0～46.5mm（平年比114～325%）で概ね多くなり、旬日照時間は平年比86～120%で概ね多くなった。

2月中旬：短い周期で気圧の谷や低気圧が通過し、曇りや雨が多い。寡照。

短い周期で気圧の谷や低気圧が通過し、曇りや雨の多い天気となった。11日は発達中の低気圧が九州付近を通過した影響で、7.0～27.0mmの降水量となった。

気温は、11、12、15日は県内各地で平年を上回ったが、これら以外の日には寒気の影響で平年を下回る所が多く、旬では県内各地で概ね平年を下回った。降水量は平年を下回る所が多く、日照時間は県内各地で平年を下回った。県内各地の旬平均気温は4.9～6.8℃（平年差-0.8～0.0℃）で平年並となった。旬降水量は4.5～41.5mm（平年比33～134%）で平年並の所が多くなり、旬日照時間は平年比50～70%で少なくなった。

2月下旬：晴れの日が多かったが、

気圧の谷や低気圧、前線の影響で曇りや雨の日もあった。高温。

25日に「春一番」が吹く。

24日に太宰府、久留米、大牟田で2月の「日最高気温の高い方から」の極値を更新。

26日に行橋で2月の「日最低気温の高い方から」の極値を更新。

前原で2月の「月平均気温の高い方から」の極値を更新。

晴れの日が多かったが、気圧の谷や低気圧、前線の影響で曇りや雨の日もあった。25日は黄海にある低気圧に向かって南よりの強い風が吹き込み、九州北部地方では「春一番」が吹いた。26日は前線を伴った低気圧が九州付近を通過した影響で、8.5～37.5mmの降水量となった。24日に太宰府で23.1℃、久留米で23.0℃、大牟田で21.8℃の最高気温を観測し、「日最高気温の高い方から」の記録を更新した。26日に行橋で11.4℃の最低気温を観測し、「日最低気温の高い方から」の極値を更新した。気温は、21日に平年を下回る所があったが期間を通して平年を上回り、旬では県内各地で平年を上回った。降水量は平年を下回る所が多く、日照時間は県内各地で平年を上回った。県内各地の旬平均気温は10.1～12.9℃（平年差+4.5～+6.2℃）で高くなった。旬降水量は13.0～60.0mm（平年比56～215%）で平年並の所が多くなり、旬日照時間は平年比119～142%で概ね多くなった。

月平均気温は、前原で9.2℃となり、2月の「月平均気温の高い方から」の記録を更新した。

(3) 3月の気象概況

**3月上旬：気圧の谷や低気圧及び前線の影響で曇りや雨の日が多く雪の降る日があった。
高温、多雨、寡照。**

気圧の谷や低気圧及び前線の影響で曇りや雨の日が多く、雪の降る日があった。九州付近を通過する低気圧や前線の影響で1日は7.5～27.0mm、4日は3.5～21.5mmの降水量となった。6日は九州南部付近の前線の影響で8.5～21.5mmの降水量となった。9～10日にかけては九州南部付近の低気圧や寒気の影響で20.5～73.0mmの降水量となった。

気温は、終わりは平年を下回ったが、旬では県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で平年を上回り、日照時間は県内各地で平年を下回った。県内各地の旬平均気温は8.4～10.4℃（平年差+1.5～+2.8℃）で高くなった。旬降水量は53.0～133.0mm（平年比215～290%）でかなり多くなり、旬日照時間は平年比2～23%でかなり少なくなった。

**3月中旬：前半は気圧の谷や低気圧及び前線の影響で曇りや雨の日が多く、
後半は高気圧に覆われて晴れの日が多い。高温。
14日に福岡でソメイヨシノの開花。**

20日に八幡、前原、久留米で「日最高気温の高い方から」の記録を更新。

気圧の谷や低気圧及び前線の影響で曇りや雨の日が多く、後半は高気圧に覆われて晴れの日が多くなった。13日はサハリン付近の低気圧からのびる寒冷前線の影響で2.5～14.0mmの降水量となった。15日は九州を通過する前線の影響で0.5～18.5mmの降水量となった。20日は九州を通過する寒冷前線の影響で2.5～24.5mmの降水量となった。また、14日に福岡でソメイヨシノの開花（平年より12日早く、昨年より1日遅い）を観測し、1953年の統計開始以来、最も早かった昨年の13日に次ぐ記録となった。20日に八幡で25.2℃、前原で26.2℃、久留米で24.0℃の最高気温を観測し、「日最高気温の高い方から」の記録を更新した。

気温は、はじめと終わりに平年を下回る日があったが、その他の日は平年を上回り、旬では県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は県内各地で平年を上回った。県内各地の旬平均気温は10.3～12.4℃（平年差+1.7～+2.9℃）で高くなった。旬降水量は10.0～46.5mm（平年比27～89%）で概ね少なくなり、旬日照時間は平年比102～125%で概ね平年並となった。

**3月下旬：前半と終わりは気圧の谷や前線及び低気圧の影響で曇りや雨の日が多い。低温。
25日に福岡でソメイヨシノの満開。**

前半と終わりは気圧の谷や前線及び低気圧の影響で曇りや雨の日が多くなった。23～25日にかけては気圧の谷や前線の影響で23.5～64.5mmの降水量となった。31日は低気圧の影響で3.0～9.0mmの降水量となった。また、25日に福岡でソメイヨシノの満開（平年より9日早く、昨年より2日遅い）を観測した。

気温は、はじめは平年を上回る日もあったが、中頃以降は平年を下回り、旬では県内各地で平年を下回った。降水量は県内各地で平年を上回った所が多くなり、日照時間は県内各地で平年を上回った。県内各地の旬平均気温は8.0～10.0℃（平年差-1.8～-0.7℃）で低くなった。旬降水量は22.0～79.0mm（平年比40～146%）で平年並の所が多くなり、旬日照時間は平年比125～148%で多くなった。

(4) 4月の気象概況

4月上旬：天気は周期的に変化。1日は寒冷前線の影響で大雨となった。

天気は周期的に変化した。1日は対馬海峡を南下する寒冷前線の影響で30.0～81.0mmの降水量となった。

気温は、平年を下回る日もあったが、旬では県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で平年を下回った所が多くなり、日照時間は県内各地で概ね平年を下回った。県内各地の旬平均気温は12.0～14.3℃（平年差+0.5～+1.3℃）で高い所が多くなった。旬降水量は30.0～76.0mm（平年比58～132%）で平年並の所が多くなり、旬日照時間は平年比87～107%で概ね平年並となった。

**4月中旬：期間のはじめと終わりは低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多く、
中頃は高気圧に覆われて晴れの日が多い。低温、寡照。**

期間のはじめと終わりは低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多く、中頃は高気圧に覆われて晴れの日が多くなった。19～20日は東シナ海から九州にのびる前線の影響で35.0～59.5mmの降水量となった。

気温は、期間のはじめと終わりに平年を上回る日もあったが平年を下回る日が多く、旬では県内各地で平年を下回った。降水量は県内各地で平年を上回り、日照時間は県内各地で平年を下回った。県内各地の旬平均気温は11.6～13.4℃（平年差-1.8～-0.9℃）で低くなった。旬降水量は58.5～85.0mm（平年比127～204%）で概ね多くなり、旬日照時間は平年比52～65%でかなり少なくなった。

4月下旬：天気は周期的に変化。低温、多雨。

22日に久留米、柳川、大牟田で「日最大1時間降水量」の記録を更新。

大牟田で「月降水量の多い方から」の記録を更新。

期間を通して、前線を伴った低気圧と移動性の高気圧が交互に九州を通過し、天気は周期的に変化した。22日と27日は、ともに前線を伴った低気圧が九州を東進した影響で、それぞれ、20.0～111.0mmと27.0～53.0mmの降水量となった。特に22日は、大牟田では「日降水量」111.0mm、「日最大1時間降水量」55.5mmを観測し、4月の「月降水量の多いほうから」を含めて記録を更新した。また、久留米、柳川でも「日最大1時間降水量」の記録を更新した。

気温は期間を通して平年を下回り、降水量は平年を上回った。日照時間は県内各地で概ね平年を上回った。県内各地の旬平均気温は12.7～14.3℃（平年差-2.6～-1.8℃）でかなり低く、旬降水量は69.0～158.0mm（平年比163～370%）で概ね多くなり、旬日照時間は平年比93～111%で平年並が多くなった。

(5) 5月の気象概況

**5月上旬：期間の前半は高気圧に覆われて晴れの日が多く、
後半は気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多い。高温、多照。**

期間の前半は高気圧に覆われて晴れの日が多く、後半は気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多くなった。10日は九州を東進する低気圧の影響で20.5～45.0mmの降水量となった。

気温は期間のはじめと終わりに平年を下回った日もあったが、その他の日は平年を上回り、旬では県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は県内各地で平年を上回った。県内各地の旬平均気温は17.2～20.0℃（平年差+0.9～+2.1℃）で高くなった。旬降水量は20.5～50.0mm（平年比33～85%）で少ない所が多くなり、旬日照時間は平年比104～128%で多くなった。

**5月中旬：期間の中頃までは高気圧に覆われて晴れの日が多く、
終わりは前線の影響で曇りや雨の日が多い。多照。**

期間の中頃までは高気圧に覆われて晴れの日が多く、後半は前線の影響で曇りや雨の日が多くなった。18～20日にかけて前線の影響で16.5～63.5mmの降水量となった。

気温は期間の前半は平年を下回った所が多く、後半は平年を上回った所が多くなった。旬では県内各地で平年を下回った所が多くなった。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は県内各地で平年を上回った。県内各地の旬平均気温は17.1～19.2℃（平年差-0.6～+0.6℃）で平年並の所が多くなった。旬降水量は19.5～65.0mm（平年比28～78%）で少ない所が多くなり、旬日照時間は平年比120～153%で多くなった。

**5月下旬：期間の中頃までは気圧の谷や低気圧及び前線の影響で曇りや雨の日が多く、
終わりは高気圧に覆われて晴れの日が多い。低温、多雨、寡照。**

期間の中頃までは気圧の谷や低気圧及び前線の影響で曇りや雨の日が多く、終わりは高気圧に覆われて晴れの日が多くなった。

22～23日にかけて低気圧からのびる前線の影響で44.0～184.5mmの降水量となった。また、23日に英彦山で157.5mm、大牟田で143.0mmの日降水量を観測し5月の極値を更新した。

気温は期間の前半は概ね平年を上回り、後半は平年を下回った。旬では県内各地で平年を下回った。降水量は県内各地で平年を上回り、日照時間は県内各地で平年を下回った。県内各地の旬平均気温は17.1～19.3℃（平年差-2.2～-0.8℃）で低くなった。旬降水量は48.0～184.5mm（平年比143～433%）で多くなり、旬日照時間は平年比57～85%で少なくなった。

(6) 6月の気象概況

6月上旬：期間の前半は高気圧に覆われて晴れの日が多く、後半は気圧の谷や低気圧の影響で曇りの日が多い。多照。

期間の前半は高気圧に覆われて晴れの日が多かったが、後半は気圧の谷や低気圧の影響で曇りの日が多くなった。2日は気圧の谷の影響で0.0～25.5mmの降水量となった。

気温は、期間のはじめは平年を下回る日が多く中頃以降は平年を上回る日が多くなり、旬では平年並の所が多くなった。降水量は平年を下回った所が多くなり、日照時間は県内各地で平年を上回った。県内各地の旬平均気温は20.3～22.3℃（平年差-0.7～+0.7℃）で概ね平年並になった。旬降水量は0.0～26.5mm（平年比0～44%）で概ね少なくなり、旬日照時間は平年比118～153%で多くなった。

6月中旬：低気圧や梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多い。高温。九州北部地方（山口県を含む）は、12日頃梅雨入り。

低気圧や梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多くなった。15日は九州南部の梅雨前線の影響で15.0～58.0mmの降水量となった。18日は九州北部の梅雨前線の影響で9.2～17.6mmの降水量となった。九州北部地方（山口県を含む）の梅雨入りは6月12日頃となった（平年は6月5日頃、去年は6月3日頃）。

気温は、期間の前半は平年を下回る日もあったが、その他の日は平年を上回る日が多くなり、旬では県内各地で平年を上回った。降水量、日照時間ともに県内各地で平年を下回った。県内各地の旬平均気温は22.2～24.4℃（平年差+0.8～+2.1℃）で高くなった。旬降水量は40.0～103.5mm（平年比50～93%）で平年並の所が多くなり、旬日照時間は平年比56～88%で概ね少なくなった。

6月下旬：梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多い。

期間中、梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多くなった。降水量は梅雨前線の北上した中頃以降に多くなり、特に26日は対馬海峡に北上した梅雨前線に、南から暖かく湿った気流が流れ込んだ影響で、29.0～129.0mmの降水量となった。

気温は、期間の中頃と終りに平年を下回る日もあったが、平年を上回る日が多く、旬では県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で平年を上回る所が多く、日照時間は県内各地で平年を下回った。県内各地の旬平均気温は23.3～24.6℃（平年差+0.3～+1.4℃）で概ね平年並となった。旬降水量は140.0～329.0mm（平年比89～166%）で多いところが多くなり、旬日照時間は平年比30～72%で概ね少なくなった。

(7) 7月の気象概況

7月上旬：梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多い。

梅雨前線は、期間のはじめは対馬海峡にあったが、4日にかけて九州南部へ南下し停滞、その後10日には再び北上を始めた。この梅雨前線の影響を受けて県内では3日～4日にかけてと10日に降水量が多くなった。

気温は、平年を下回る日もあったが、平年を上回る日が多く、旬では県内各地で平年を上回った。降水量、日照時間はともに県内各地で平年を下回った。県内各地の旬平均気温は24.9～26.3℃（平年差+0.6～+1.4℃）で高い所が多くなった。旬降水量は40.5～138.0mm（平年比32～92%）で概ね平年並み、旬日照時間は平年比51～71%で少ない所が多くなった。

7月中旬：期間の中頃までは梅雨前線や湿った気流の影響で曇りや雨の日が多く、 終わりは太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多い。多雨。

九州北部地方（山口県を含む）では17日頃梅雨明け。

13日に行橋で208.5mmの日降水量を観測し7月の極値を更新。

期間の中頃までは対馬海峡から九州北部にかけて停滞した梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多くなり、終わりは太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多くなった。11～16日は停滞した梅雨前線や南からの暖かく湿った気流の影響で216.5～561.0mmの降水量となった。13日に行橋で208.5mmの日降水量を観測し7月の極値を更新した。九州北部地方（山口県を含む）の梅雨明けは7月17日頃となった（平年は7月18日頃、昨年は8月4日頃）。

気温は、期間の前半は平年を下回った日が多く、後半は平年を上回った日が多くなり、旬では県内各地で平年を上回った所が多くなった。降水量は県内各地で平年を上回り、日照時間は県内各地で概ね平年を下回った。県内各地の旬平均気温は25.1～27.4℃（平年差-0.5～+1.1℃）で概ね平年並となった。旬降水量は225.0～566.5mm（平年比158～500%）で多くなり、旬日照時間は平年比76～100%で概ね平年並となった。

7月下旬：期間の前半は太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多く、 後半は気圧の谷や暖かく湿った気流の影響で曇りや雨の日が多い。

期間の前半は太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多く、後半は気圧の谷や東シナ海を北上する熱帯低気圧からの暖かく湿った気流の影響で曇りや雨の日が多くなった。27～28日は暖かく湿った気流の影響で1.5～36.0mmの降水量となった。

気温は、期間の後半に平年を下回った日もあったが、平年を上回った日が多くなり、旬では県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は県内各地で概ね平年を上回った。県内各地の旬平均気温は27.5～29.4℃（平年差+0.5～+1.7℃）で概ね高くなった。旬降水量は2.5～59.0mm（平年比5～82%）で概ね少なくなり、旬日照時間は平年比97～140%で平年並の所が多くなった。

(8) 8月の気象概況

8月上旬：太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多いが大気の状態は不安定。高温。

前原、添田で日最高気温の高い方、前原で日最低気温の高い方からの記録を更新。

太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多く気温は平年より高く経過したが、湿った気流や日射等の影響を受け夕立となる日も多かった。前原と添田では日最高気温の高い方からの記録を、前原では日最低気温の高い方からの記録を更新した。また、梅雨明け（7月17日頃）以降、高温と少雨の状態が続いているため、5日に「長期間の高温と少雨に関する福岡県気象情報 第1号」を発表した。

気温は、県内各地で平年を上回った。降水量は概ね平年を下回り、日照時間は平年を上回るころが多かった。県内各地の旬平均気温は27.9～30.2℃（平年差+1.3～+2.8℃）で高くなった。旬降水量は8.0～98.5mm（平年比17～135%）で平年並みの所が多く、旬日照時間は平年比88～122%で概ね平年並となった。

8月中旬：期間の前半は台風第4号や暖かく湿った気流の影響で曇りや雨の日が多く、

後半は太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多い。高温。

14日に福岡、前原で、15日に添田で「日最低気温の高い方から」の記録を更新。

期間の前半は台風第4号や暖かく湿った気流の影響で曇りや雨の日が多く、後半は太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多くなった。11日は朝鮮半島南岸を北東進する台風第4号の影響で7.5～71.0mmの降水量となった。14日に福岡で29.7℃、前原で29.0℃、15日に添田で26.9℃の日最低気温を観測し「日最低気温の高い方から」の記録を更新した。また、梅雨明け（7月17日頃）以降、高温と少雨の状態が続いているため、20日に「長期間の高温と少雨に関する福岡県気象情報 第2号」を発表した。

気温は、期間を通して平年を上回り、旬では県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で概ね平年を下回り、日照時間は県内各地で概ね平年を上回った。県内各地の旬平均気温は27.8～30.4℃（平年差+1.3～+3.1℃）で高くなった。旬降水量は11.0～94.5mm（平年比31～136%）で概ね平年並となり、旬日照時間も平年比92～136%で概ね平年並となった。

8月下旬：太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多くなったが、

後半は湿った気流や日射の影響で曇りや雨の日が多い。高温。

21日に宗像で、28日に福岡で、8月の「日最高気温の高い方から」の極値を更新。

宗像、八幡、行橋、前原、福岡、太宰府、添田、朝倉、久留米、大牟田で、

8月の「月平均気温の高い方から」の極値を更新。

太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多くなったが、後半は湿った気流や日射の影響で曇りや雨の日が多くなった。21日に宗像で37.2℃、28日に福岡で37.4℃の日最高気温を記録し8月の「日最高気温の高い方から」の極値を更新した。

気温は、期間を通して平年を上回り、旬では県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は県内各地で平年を上回った。県内各地の旬平均気温は27.4～30.4℃（平年差+1.9～+3.7℃）でかなり高くなった。旬降水量は11.0～68.0mm（平年比11～92%）で概ね平年並となり、旬日照時間も平年比114～159%で多くなった。

月平均気温は、宗像で28.7℃、八幡で29.5℃、行橋で28.7℃、前原で29.7℃、福岡で30.3℃、太宰府で29.5℃、添田で28.0℃、朝倉で28.7℃、久留米で29.6℃、大牟田で28.9℃となり、8月の「月平均気温の高い方から」の記録を更新した。

(9) 9月の気象概況

9月上旬：期間の前半と終わりは太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多く、

その他の日は台風第9号の影響で曇りや雨の日が多い。高温。

1日に福岡、前原、久留米、4日に宗像、太宰府、大牟田で、

9月の「日最高気温の高い方から」の極値を更新。

2日に福岡、前原、6日に八幡で、9月の「日最低気温の高い方から」の極値を更新。

期間の前半と終わりは太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多くなったが、その他の日は台風第9号の影響で曇りや雨の日が多くなった。7日から8日にかけては台風第9号の影響で4.0～52.0mmの降水量を観測した。また、梅雨明け（7月17日頃）以降、高温と少雨の状態が続いているため、2日に「長期間の高温と少雨に関する福岡県気象情報 第3号」を発表した。1日に福岡で36.4℃、前原で37.4℃、久留米で37.0℃、4日に宗像で35.6℃、太宰府で36.0℃、大牟田で35.5℃の日最高気温を記録し9月の「日最高気温の高い方から」の極値を更新した。2日に福岡で27.7℃、前原で26.8℃、6日に八幡で26.7℃の日最低気温を記録し9月の「日最低気温の高い方から」の極値を更新した。

気温は、期間を通して概ね平年を上回り、旬では県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は県内各地で平年を上回った。県内各地の旬平均気温は26.5～28.8℃（平年差+2.4～+3.7℃）でかなり高くなった。旬降水量は4.0～74.5mm（平年比10～71%）で少ない所が多くなり、旬日照時間も平年比101～120%で概ね平年並となった。

9月中旬：前半と終わりは気圧の谷や低気圧及び前線の影響で曇りや雨の日が多く、

その他の日は高気圧に覆われて晴れの日が多い。高温。

11日に行橋で9月の「日最高気温の高い方から」の記録を更新。

期間の前半と終わりは気圧の谷や低気圧及び前線の影響で曇りや雨の日が多くなったが、その他の日は高気圧に覆われて晴れの日が多くなった。12日から13日にかけては低気圧や南下する前線の影響で2.0～39.0mmの降水量を観測した。また、11日に行橋で34.6℃の日最高気温を観測し、9月の「日最高気温の高い方から」の記録を更新した。

気温は、期間を通して概ね平年を上回り、旬では県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で概ね平年を下回り、日照時間は県内各地で平年を上回った。県内各地の旬平均気温は24.3～26.9℃（平年差+1.8～+3.0℃）で高くなった。旬降水量は2.0～68.5mm（平年比3～151%）で平年並の所が多くなり、旬日照時間は平年比118～144%で概ね多くなった。

9月下旬：はじめと終わりは低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多く、

中頃は高気圧に覆われて晴れの日が多い。高温。

21日に行橋で9月の「日最高気温の高い方から」の記録を更新。

期間のはじめと終わりは低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多くなったが、期間の中頃は高気圧に覆われて晴れの日が多くなった。22日から23日にかけては九州北部を南下する前線の影響で28.5～135.0mmの降水量を観測した。27日は九州を東進する前線を伴う低気圧の影響で22.0～57.5mmの降水量を観測した。21日に行橋で34.6℃の日最高気温を観測し、9月の「日最高気温の高い方から」の記録を更新した（※11日とタイ記録）。

気温は、期間を通して平年を上回った所が多くなり、旬では県内各地で平年を上回った。降水量、日照時間ともに県内各地で概ね平年を上回った。県内各地の旬平均気温は20.3～23.3℃（平年差+0.1～+1.7℃）で概ね高くなった。旬降水量は59.5～192.5mm（平年比94～228%）で概ね多くなり、旬日照時間は平年比94～111%で概ね平年並となった。

(10) 10月の気象概況

10月上旬：期間の前半は気圧の谷や低気圧及び前線の影響で曇りや雨の日が多く、後半は数日の周期で変化。高温。

期間の前半は気圧の谷や低気圧及び前線の影響で曇りや雨の日が多くなったが、期間の後半は数日の周期で変化した。3日は日本海の低気圧からのびる寒冷前線の影響で8.0～34.5mmの降水量を観測した。

気温は、期間の中頃は平年を下回った日が多くなったが、その他の日は平年を上回った日が多くなり、旬では県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で概ね平年を下回った。日照時間は県内各地で平年を下回った。県内各地の旬平均気温は18.9～21.6℃（平年差+0.4～+1.5℃）で高くなった。旬降水量は15.0～50.5mm（平年比43～153%）で概ね平年並となり、旬日照時間は平年比77～94%で概ね少なくなった。

10月中旬：高気圧に覆われて晴れの日もあったが気圧の谷や前線の影響で曇りの日が多い。少雨。

高気圧に覆われて晴れの日もあったが、気圧の谷や前線の影響で曇りの日が多くなった。

気温は、期間の後半に平年を下回った日もあったが、その他の日は平年を上回り、旬では県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で平年を下回った。日照時間は県内各地で概ね平年を下回った。県内各地の旬平均気温は18.0～20.6℃（平年差+0.5～+1.7℃）で概ね高くなった。旬降水量は0.0～2.5mm（平年比0～8%）で少なくなり、旬日照時間は平年比85～106%で概ね平年並となった。

10月下旬：気圧の谷や前線及び低気圧の影響で曇りや雨の日が多い。高温、多雨、寡照。八幡、行橋、飯塚、前原、添田、朝倉では、10月の「月間日照時間の少ない方から」の記録を更新。

気圧の谷や前線及び低気圧の影響で曇りや雨の日が多くなった。24日から25日にかけては九州を東進する前線の影響で35.0～67.5mmの降水量を観測した。31日は四国沖を北東進する前線を伴った低気圧の影響で0.0～19.0mmの降水量を観測した。気温は、期間の後半に平年を下回った日もあったが、平年を上回った日が多くなり、旬では県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で平年を上回った。日照時間は県内各地で平年を下回った。県内各地の旬平均気温は15.9～18.1℃（平年差+1.3～+2.3℃）で高くなった。旬降水量は43.5～78.5mm（平年比246～506%）でかなり多くなり、旬日照時間は平年比30～49%でかなり少なくなった。

月間日照時間は、八幡で121.5h、行橋で125.2h、飯塚で120.2h、前原で120.7h、添田で105.4h、朝倉で130.9hを観測し、10月の「月間日照時間の少ない方から」の記録を更新した。

(11) 11月の気象概況

11月上旬：高気圧に覆われ晴れる日が多いが気圧の谷や寒気の影響を受けた。低温、多照。

高気圧に覆われ晴れる日が多かったが、一時的に気圧の谷や寒気の影響を受けた。1日は日本海を東進する発達中の低気圧の影響で0.0～34.0mmの降水量となった。

気温は、期間の前半と後半に平年を下回る日が多く、旬では県内各地で平年を下回った。降水量は概ね平年を下回り、日照時間は県内各地で平年を上回った。県内各地の旬平均気温は11.4～14.4℃（平年差-2.0～-1.0℃）で低かった。旬降水量は0.5～35.0mm（平年比2～131%）で概ね平年並となり、旬日照時間は平年比124～140%で多くなった。

11月中旬：期間の中頃までは低気圧や前線の影響で曇りの日が多く雨の降る日もあったが後半は高気圧に覆われて晴れの日が多い

期間の中頃までは気圧の谷や低気圧及び前線の影響で曇りの日が多く中頃に雨の降る日もあったが、後半は移動性高気圧に覆われやすく晴れの日が多くなった。

気温は、期間の前半は平年を上回る日が多く後半は概ね平年を下回り、旬では県内各地で概ね平年を下回った。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は県内各地で概ね平年を上回った。県内各地の旬平均気温は10.8～13.6℃（平年差-0.7～+0.2℃）で平年並となった。旬降水量は2.5～20.0mm（平年比29～98%）で平年並か少なくなり、旬日照時間は平年比113～141%で概ね多くなった。

11月下旬：高気圧や低気圧が交互に通過し天気は周期的に変化。福岡で29日に初霜を観測。

移動性の高気圧や低気圧が交互に九州付近を通過したため、天気は周期的に変化した。福岡では29日に初霜（平年より9日早く、昨年より9日早い）を観測した。

気温は、期間の前半は概ね平年を上回ったが後半は平年を下回り、旬では県内各地で平年並となった。降水量は平年並のところが多く、日照時間は県内各地で概ね平年を上回った。県内各地の旬平均気温は9.0～11.8℃（平年差-0.5～+0.3℃）で平年並となった。旬降水量は7.0～19.5mm（平年比23～61%）で平年並か少なくなり、旬日照時間は平年比114～132%で概ね多くなった。

(12) 12月の気象概況

12月上旬：高気圧や低気圧が交互に通過し天気は周期的に変化。多雨、多照。

9日に背振山で初冠雪、10日に福岡で初氷を観測。

移動性の高気圧や低気圧が交互に九州付近を通過したため、天気は周期的に変化した。2日は九州西海上の前線を伴う低気圧の影響で19.0～41.0mmの降水量となった。また、9日に背振山で初冠雪（平年より5日遅く、昨年より7日早い）、10日に福岡で初氷（平年より5日早く、昨年より9日早い）を観測した。

気温は、期間の終わりに平年を下回ったが、その他の日は概ね平年を上回り、旬では県内各地で平年を上回った。また、降水量、日照時間ともに県内各地で平年を上回った。県内各地の旬平均気温は7.5～10.5℃（平年差+0.1～+1.0℃）で概ね平年並となった。旬降水量は26.5～77.0mm（平年比117～370%）で多くなり、旬日照時間は平年比119～134%で多くなった。

12月中旬：気圧の谷や前線及び冬型の気圧配置による寒気の影響で曇りや雨の日が多く、

期間の中頃に雪の降る日があった。多雨。

16日に福岡で初雪を観測。

気圧の谷や前線及び冬型の気圧配置による寒気の影響で曇りや雨の日が多く、期間の中頃に雪の降る日があった。13日は九州を通過した前線を伴う低気圧の影響で16.0～58.5mmの降水量となった。また、16日に福岡で初雪（平年より3日遅く、昨年より1日早い）を観測した。

気温は、期間の中頃は平年を下回ったが、その他の日は平年を上回り、旬では県内各地で平年を上回った。また、降水量は県内各地で平年を上回り、日照時間は県内各地で概ね平年を下回った。県内各地の旬平均気温は7.0～9.0℃（平年差+0.4～+1.3℃）で概ね高くなった。旬降水量は28.5～84.5mm（平年比232～438%）でかなり多くなり、旬日照時間は平年比78～105%で平年並の所が多くなった。

12月下旬：低気圧や前線及び冬型の気圧配置による寒気の影響で曇りや雨の日が多く、

期間の中頃以降に雪の降る日があった。多雨、寡照。

宗像、八幡、頂吉、行橋、飯塚、前原、福岡、太宰府、添田、朝倉、久留米、耳納山では、12月の「月降水量の多い方から」の記録を更新。

低気圧や前線及び冬型の気圧配置による寒気の影響で曇りや雨の日が多く、期間の中頃以降に雪の降る日があった。

気温は、期間の中頃と終わりに平年を下回った日が多くなり、旬では県内各地で平年を下回った。また、降水量は県内各地で平年を上回り、日照時間は県内各地で平年を下回った。県内各地の旬平均気温は3.8～6.9℃（平年差-1.5～-0.2℃）で概ね低くなった。旬降水量は25.0～91.5mm（平年比236～446%）で多くなり、旬日照時間は平年比47～79%で少なくなった。

月降水量は、宗像で177.5mm、八幡で148.0mm、頂吉で197.5mm、行橋で157.5mm、飯塚で143.5mm、前原で180.5mm、福岡で148.0mm、太宰府で165.0mm、添田で162.5mm、朝倉で130.0mm、久留米で133.0mm、耳納山で120.5mmを観測し、12月の「月降水量の多い方から」の記録を更新した。

(13) 月別値の階級区分

福岡の月別値の階級区分

年 月	月平均気温	月降水量	月日照時間
平成22年1月	平年並	平年並	かなり多い
平成22年2月	かなり高い	多い	平年並
平成22年3月	高い	多い	少ない
平成22年4月	かなり低い	かなり多い	少ない
平成22年5月	平年並	少ない	平年並
平成22年6月	高い	平年並	平年並
平成22年7月	平年並	多い	少ない
平成22年8月	かなり高い	少ない	多い
平成22年9月	かなり高い	平年並	かなり多い
平成22年10月	かなり高い	平年並	かなり少ない
平成22年11月	平年並	少ない	かなり多い
平成22年12月	平年並	かなり多い	平年並

階級区分について

平成13年1月から使用を開始した1971～2000年統計値からは、「高い(多い)」、「平年並」、「低い(少ない)」の3階級を用い、平年から極端に異なった状況を表現する場合には、「かなり高い(多い)」、「かなり低い(少ない)」を補足的に用いることになりました。3階級の出現率は「33.3%、33.3%、33.3%」(1:1:1)の等確率で、「かなり高い(多い)」、「かなり低い(少ない)」の出現率は10%です。